

令和7年2月26日
2024年度 公共交通シンポジウム in 九州

【事例紹介】

交通結節点からの新たな 二次交通の確保について

～観光×交通、そして地域活性化へ～

八代市総務企画部地域政策課
主任 西田 雄哉

1 八代市について

2 八代市の公共交通について

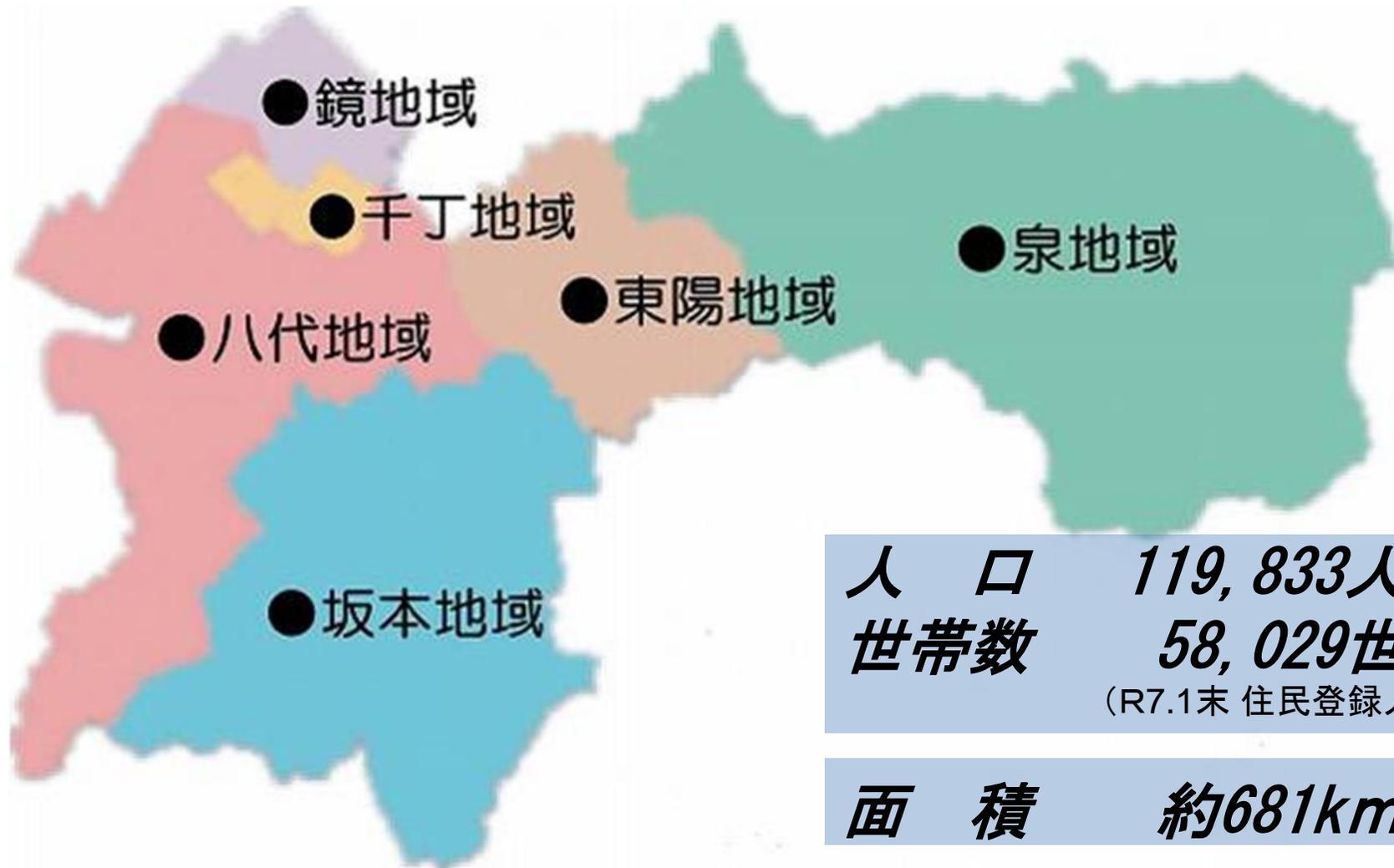
3 八代市の取組について

4 今後の取組予定について

1 八代市について

九州のほぼ中央に
位置しています





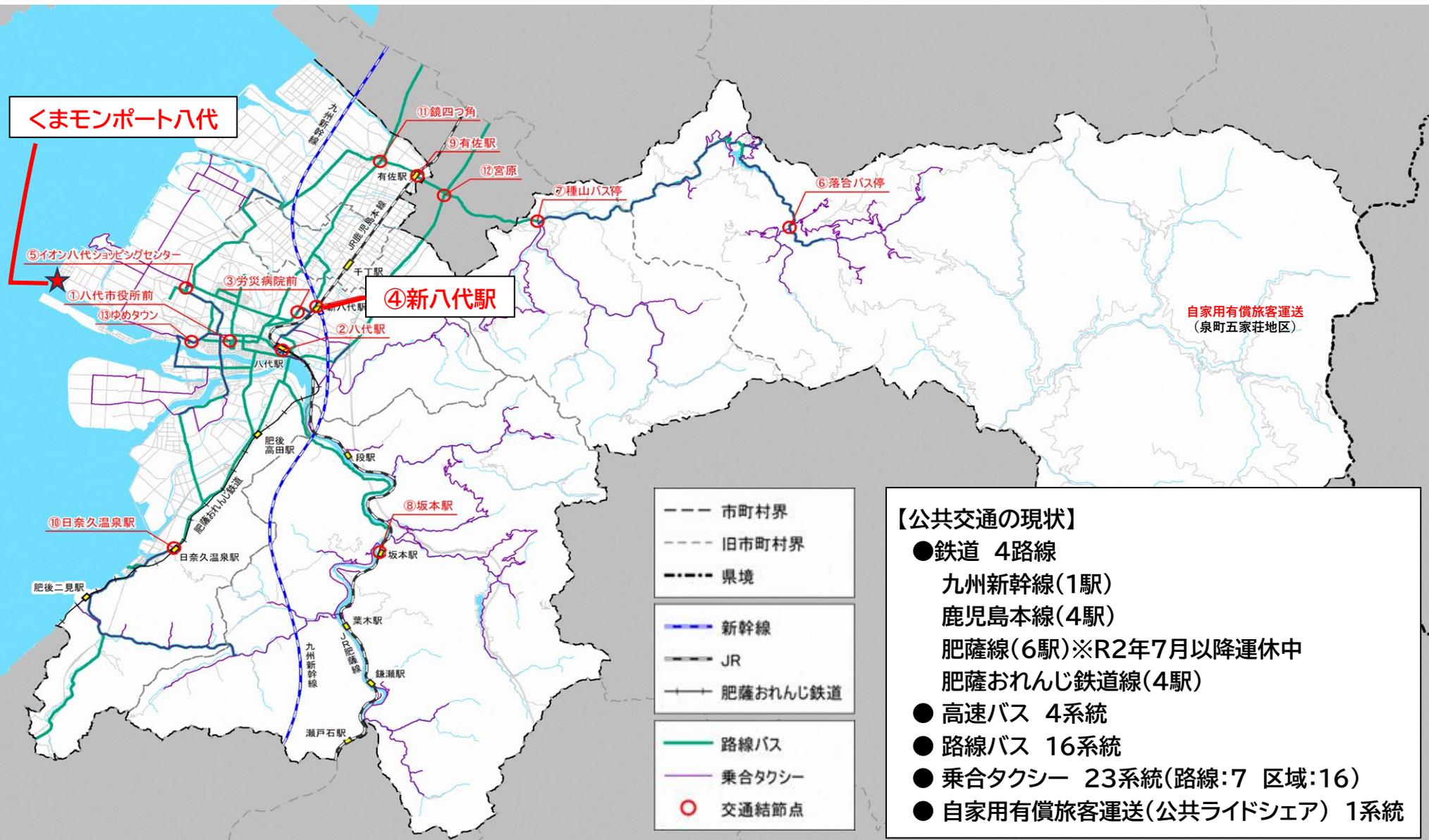
人 口 119,833人
世帯数 58,029世帯
(R7.1末 住民登録人口)

面 積 約681km²

(参考) 九州の市町村で6番目の広さ

2 八代市の公共交通について

八代市内の公共交通について



八代市の交通アクセスについて

八代市の交通アクセスの遷移

1959 (S34) 年	八代港が重要港湾に指定
1980 (S55) 年	九州縦貫自動車道八代IC開通
1998 (H10) 年	南九州西回り自動車道八代南IC開通
2001 (H13) 年	南九州西回り自動車道日奈久IC開通
2004 (H16) 年	九州新幹線部分開業
2011 (H23) 年	九州新幹線全線開業
2017 (H29) 年	八代港が国際旅客船拠点形成港湾に指定

→ 南九州の交通の結節点として、九州新幹線や高速自動車道、アジア物流拠点として県内最大の国際貿易港である八代港が整備され、陸・海路の「交通の要衝」となっている



3 八代市の取組について

道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験）等の公募開始

（令和5年4月3日付けプレスリリース）

▶国土交通省道路局において、平成11年度から実施されている、道路に関する新たな施策の展開と円滑に事業を実施することを目的とする現地実証実験（社会実験）

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

同時発表：各地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務局 令和5年4月3日
道路局環境安全・防災課

道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験）等の公募開始

国土交通省道路局では、新たな施策の展開と円滑に事業を実施することを目的とする現地実証実験（社会実験）を、公募により平成11年度から実施しています。

また、令和3年度より、民間企業が有するアイデアシーズと地方公共団体等が抱える課題「ニーズ」をマッチングして、現地実証実験に活用できるよう、民間企業等が有するアイデアの公募も行っています。

このたび、令和5年度の現地実証実験（社会実験）と民間企業等が有するアイデアについて、公募を開始しますので、お知らせします。

道路に関する新たな取り組みの現地実証実験の公募（地方整備局等に受け付け）

○ 募集内容：道路施策の導入に先立ち場所や期間を仮定し、試行・評価する現地実証実験

○ 申請者：地方公共団体
※民間企業が現地実証実験を行いたい場合は、一緒に取り組む地方公共団体と協議会等を組織し、地方公共団体に申請することが可能です。

○ 提出先：実験を実施する地域を管轄する地方整備局等
なお、実験内容や申請等に際する事前相談、問い合わせを随時受け付けています。

○ 受付期間：令和5年4月3日（月）～5月12日（金）

○ 公募要領等：詳細は、別添：公募要領（実証実験）を参照してください。
公募要領や【様式】公募申請書以下のウェブサイトからダウンロードできます。
https://www.mlit.go.jp/road/demopro/public_offering/offer.html

民間企業等が有するアイデアの公募（地方整備局等に受け付け）

○ 募集内容：地域の課題解決に資する道路での新たな取り組みのアイデア

○ 応募者：民間企業等の団体

○ 提出先：地方整備局等
なお、提案内容や申請等に際する事前相談、問い合わせを随時受け付けています。

○ 受付期間：令和5年4月3日（月）～5月12日（金）

○ 公募要領等：詳細は、別添：公募要領（アイデア公募）を参照してください。
公募要領や【様式】提案書以下のウェブサイトからダウンロードできます。
https://www.mlit.go.jp/road/demopro/public_offering/idea-offer.html

【問い合わせ先】
道路局 環境安全・防災課 柴山、安藤
電話【代表】03-5253-8111（内線 38232、38233）【直通】03-5253-8495

道路の景色を変えていく 社会実験

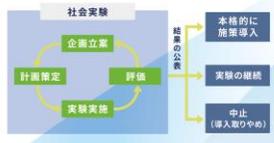
社会実験とは

社会実験は、社会的に影響を与える可能性のある道路施策の導入に先立ち、関係行政機関、地域住民等の参加のもと、場所や期間を限定して当該施策を試行・評価し、もって新たな施策の展開と円滑に事業を執行することを目的とするものです。

国土交通省道路局では、平成11年度より社会実験を実施しており、令和4年度までに合計347件を実施しました。

国土交通省が負担する限度額は1,000万円程度とします。*

*国土交通省が負担する限度額は、地方整備局からの申請内容により、パンフレットに掲載の目安額を超過する場合があります。

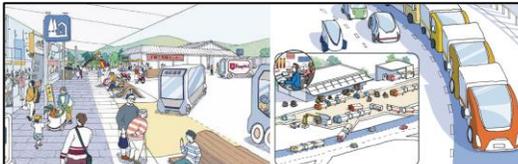


社会実験のメリット

地域の課題解決につながった！
各地で新規施策導入の一助に！！

- 実験結果から観光シーズンにシャトルバス運行を継続的に実施できた。
- 実験結果から道路内に駐輪キック設置場所を確保し、駐輪自乗車が入りやすくなった。
- 実験の結果をバス事業者が判断し、運行バスの導入につながった。
- 実験結果を国土交通省が判断し、実験や道路整備改善が、観光施策の推進や観光振興に貢献する効果が期待できる。

計画策定時に社会実験有識者からの助言や提案などの支援が受けられます！！



2040年、道路の景色が変わる

～人々の幸せにつながる道路～



九州地方整備局「道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験）等の公募開始」
令和5年4月3日付けプレスリリース

国土交通省「社会実験パンフレット」
<https://www.mlit.go.jp/road/demopro/about/pamphlet.pdf>

国土交通省「2040、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～（本文）」
<https://www.mlit.go.jp/road/vision/pdf/01.pdf>

道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験）の採択

（令和5年6月29日付けプレスリリース）

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和5年6月29日
国土交通省
九州地方整備局

道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験）の実施について

○ 国土交通省道路局では、社会的に影響を与える可能性のある道路施策の導入に先立って、地域住民等の参加のもと、場所や期間を限定して当該施策を試行・評価し、もって新たな施策の展開と円滑に事業を執行することを目的とする現地実証実験（社会実験）を、公募により平成11年度から実施しています。

○ 令和5年度においても実験を実施する地域を公募し、九州地方整備局管内では、以下の実験が採択されましたので、お知らせします。

申請団体	実験の名称	実験の概要	タイプ
熊本県 八代市	デジタル予約アプリを活用したモビリティ・ハブ実証実験	JR 新八代駅において AI オンデマンドバス・タクシー、レンタサイクル等多様な交通手段を接続し、シームレスに利用可能とするモビリティ・ハブを検証	現地実証実験 タイプ (複数年度)

○ 社会実験については、以下のホームページをご覧ください。
<https://www.mlit.go.jp/road/demopro/index.html>

○ 令和5年度に提案のあった「道路に関する新たな取り組みに活用できる民間企業等が有するアイデア」については、以下のホームページをご覧ください。
https://www.mlit.go.jp/road/demopro/public_offering/kohyo/r05.html

【問い合わせ先】
国土交通省 九州地方整備局 TEL 092-471-6331（代表）
道路部 道路計画第二課 課長 井本 真樹男（内線4251）

九州地方整備局「道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験）の実施について」
令和5年6月29日付けプレスリリース

報道資料

八代市
YATSUSHIRO

令和5年6月29日
企画政策課

道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験）の採択について

～新八代駅とくまモンポート八代を繋ぐ AI オンデマンドバスの実証実験～

国土交通省において新たな施策の展開と円滑に事業を執行することを目的とした「道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験）」に、本市が提案した「デジタル予約アプリを活用したモビリティ・ハブ実証実験」が令和5年6月29日に採択されました。この実証実験では、新八代駅に交通接続・乗換拠点（モビリティ・ハブ）の機能を整備し、駅周辺の回遊性を高めるとともに、新八代駅からくまモンポート八代間を繋ぐ新たな AI オンデマンドバスの導入などを行う予定です。本実験を着実に実施することにより、市民の皆様の移動利便性の向上に向けた取組を進めるとともに、「スマートシティやつしろ」の実現に向けた取組を推進してまいります。

- 1 採択実験 デジタル予約アプリを活用したモビリティ・ハブ実証実験
- 2 実験概要(別紙参照)
JR新八代駅において、AIオンデマンドバス・タクシー、レンタサイクル等多様な交通手段を接続させ、デジタル予約アプリを介してシームレスに利用可能とするモビリティ・ハブを整備することにより、駅周辺の回遊性を高めるとともに、JR新八代駅からくまモンポート八代までの移動手段の確保に関する実証実験を行う。
- 3 実証期間 令和5～6年度(2か年)
◀スケジュール(予定)▶
・令和5年度:新八代駅周辺地区モビリティ・ハブ推進協議会(仮称)の設置
現状・課題分析、実証フィールドの選定、デジタル予約アプリの開発等
・令和6年度:AI オンデマンドバス等の新交通サービスの実証実験
実証成果の取りまとめ

問合せ 企画政策課 担当:西田・瀬戸口
TEL 0965-33-4104

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

八代市「道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験）の採択について」
令和5年6月29日付けプレスリリース

背景・課題

- 八代港への国際クルーズ船寄港によるインバウンド、新幹線、バス等の公共交通機関を利用した旅行客の増加、ビジネスパーソン等の関係人口の増加が見込まれる
- 一方、公共交通機関を活用した旅行客等が、新八代駅からくまモンポート八代、八代城跡等、主要観光拠点への交通手段が少なく、利用客に不便を来している
- 新八代駅の鉄道からバスやタクシー等の交通機関への乗り換え、行き先、空車情報などの利用者へのリアルタイムの情報提供が不足している

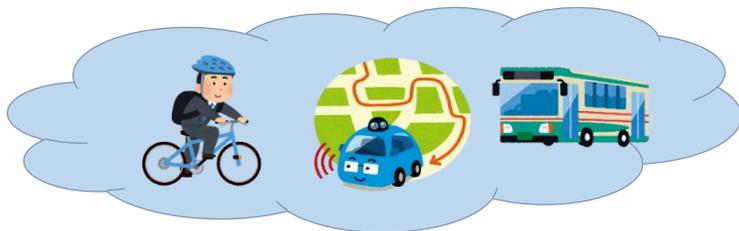
対応策 = 実証実験

- 新八代駅に多様なモビリティサービスを集約し、それらをシームレスに利用可能にすることで交通接続・乗換拠点（モビリティ・ハブ）としての機能を高める
- デジタル予約アプリにより、新八代駅付近で利用できるモビリティサービスの空車情報などの検索・予約を可能にする
- 新八代駅を拠点として市民や観光客からの要望があるくまモンポート八代を繋ぐAIオンデマンドバスを運行する

実証実験概要

【道路に関する新たな取り組みの現地実証実験(社会実験)2か年事業】R5.8～R7.2

- ✓ JR新八代駅周辺地区モビリティ・ハブ推進協議会を設置し、駅の乗換拠点としての現状・課題分析及び事業計画の策定、将来像について検討
- ✓ 協議会の結果を踏まえた運行内容の決定、新交通サービスの導入に向けた準備、デジタル技術の活用による予約アプリを開発
- ✓ AIオンデマンドバス等の新交通サービスの実証運行を実施



“予約アプリで乗りたいモビリティ情報を入力”



＜新交通サービスの実証イメージ＞

新八代駅周辺においては、人流や物流の拠点として本市の玄関口にふさわしいまちづくりを進めていく

- ▶ 近年のデジタル技術を活用した社会課題解決に向けた取組の進展やT S M Cの熊本進出を契機とした市町村間の企業誘致競争等の激化に対応する
- ▶ 新八代駅周辺地域の物流・人流拠点機能を高めるとともに、将来を見据えた企業誘致用地を整備し県南地域の中核都市に相応しいまちづくりを進めていく

令和5年1月「新八代駅周辺及び企業誘致用地整備推進本部」を設置
令和6年3月「新八代駅周辺グランドデザイン」を策定



- ▶ 新八代駅周辺整備が起爆剤となり、本市に多くの人々が訪れ、中心市街地などへの人の流れを生み出すことで、にぎわいの創出だけでなく、本市の未来を担う若者や子どもたちに夢を与える「まち」になることを推進するための構想

八代市「新八代駅周辺グランドデザイン」
https://www.city.yatsushiro.lg.jp/kiji00321857/3_21857_119999_up_3luulzgv.pdf

本市の観光客数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や令和2年7月豪雨等の影響により減少傾向にあった

- 一方で、全国的にキャンプ・サイクリングなどの「アウトドア」への注目度が高まっている
- アフターコロナを見据えた本市の交流人口・関係人口の拡大を図り、本市の豊かな自然と、歴史・文化や農水産物等の地域資源を最大限活用したアウトドアツーリズムを構築する必要がある

令和4年度「八代市アウトドアツーリズム観光戦略」を策定 令和5年度より当該戦略に基づく取組を加速化させる

八代市アウトドアツーリズム観光戦略【概要】

1. 戦略策定の背景・目的

- 新型コロナウイルス感染症、令和2年7月豪雨による観光入込客数の減少
- アウトドアへの注目度の高まり

アフターコロナを見据えた交流人口・関係人口の拡大を図るためのエンジンとなる取組が必要

「アウトドアツーリズム観光戦略」の策定
本市の豊かな自然と、歴史・文化や農水産物等の地域資源を最大限活用したアウトドアツーリズムを構築

2. 基本コンセプト

アウトドア・スタート・シティ やつしろ
～八代で始める！楽しむ！深める！海・山・川・里でのアウトドア～

豊かな自然を活かし、アウトドアに関心を持つ人が、本市で気軽にアウトドアを始め、何度か訪れてアウトドアを楽しむ、価値ある体験として深めることができるまちを目指す。

3. 戦略の位置づけ

第2次八代市総合計画
第2期八代市まちづくりビジョン
八代市観光振興計画
八代市アウトドアツーリズム観光戦略

熊本県の関係計画等
八代市の関係計画等

4. 基本目標

基本コンセプト **アウトドア・スタート・シティ やつしろ**

ニューノーマルへの対応 観光DXの推進 SDGsの観点による関係人口拡大

基本目標1

八代独自のアウトドア・コンテンツを創る

1. 新たなアウトドア・コンテンツの開発
2. アウトドア+αの独自コンテンツの開発

基本目標2

八代で気軽かつ快適にアウトドアができる環境を整える

1. アウトドア拠点施設の充実
2. サイクリング架け入れ環境の充実
3. ワンストップサービスの強化

基本目標3

八代のアウトドアをPRし、何度も来てもらう

1. アウトドアイベントの開催
2. デジタルを核としたプロモーションの推進
3. 国内外からの誘客の促進

基本目標4

八代のアウトドアを支える人材と体制を強化する

1. アウトドアツーリズムに係る人材の育成
2. アウトドアツーリズム推進体制の確立

【参考】八代及び水俣・芦北地域サイクルツーリズム推進協議会

国交省や熊本県、県南市町、民間事業者などで連携し、市域を越えた県南地域広域でのサイクルツーリズムの推進に取り組んでいます。
R3年度に組織充足

サイクルツーリズム推進協議会の取組み

サイクリングマップの作成・配布

サイクリストが円滑に周遊するために活用できる情報ルートや観光施設、特産品などを掲載したサイクリングマップを制作しています。

自転車通行区間の整備

舗装補修や矢羽根の設置など自転車通行区間の整備を行い、サイクリストが快適に走行できる環境を整えています。

「デジタル予約アプリでつながるモビリティ・ハブ」をテーマにアウトドアツーリズムと連携しながら取組を進めました

- ▶実施期間：令和6年5月1日～10月31日
- ▶新八代駅で利用できる8つのモビリティサービス（既存5、新規3）の情報をデジタル予約アプリに集約した
- ▶新たに導入したAIオンデマンドバス、電動キックボード、レンタサイクルの利用者合計は311人であった
- ▶アプリではグーグルマップ、市の観光ポータルサイト、my route（九州MaaS）に遷移できるようにし、外国語（英語、中国語（簡体字・繁体字））に対応した
- ▶アプリのアクセス数は1,400件で、そのうち約38%が海外からのアクセスであった（中国、台湾、アメリカからのアクセスが多かった）



※写真はアウトドアツーリズムの取組の一環で、R6.3にオープンした「アウトドアステーションやつしろ」レンタサイクル、電動キックボード、アウトドア用品などの貸し出しを行っているやつしろ観光ポータルサイト きなっせやつしろ：<https://www.kinasse-yatsushiro.jp/outdoor/>

新八代駅とくまモンポート八代までを結ぶAIオンデマンドバス 「くまモンポートライナー」を運行しました

【概要】

実施期間：令和6年5月3日～
10月27日
(うち58日間)

運行便数：最大8便/日

運行区間：新八代駅～お祭りでん
でん館～ゆめタウン八
代～イオン八代～くま
モンポート八代

利用料金：1,000円/人
(1日フリー乗車)
※8/3から変更
小学生以下は無料

A I オンデマンドバス運行系統図



【凡例】

-  停留所 (JR新八代駅、お祭りでん館、ゆめタウン八代、イオン八代、くまモンポート八代)
-  ルート①：JR新八代駅～(イオン八代)～くまモンポート八代
-  ルート②：JR新八代駅～(お祭りでん館～ゆめタウン八代)～くまモンポート八代
-  ルート③：JR新八代駅～(お祭りでん館～ゆめタウン八代)～イオン八代～くまモンポート八代

AIオンデマンドバス「くまモンポートライナー」の運行について

- ▶ 運行状況等
- ・ 利用者は期間中230人
 - ・ 利用者230人のうち約65%が予約なしの利用であった
 - ・ 95%以上が新八代駅とくまモンポート八代間の利用であった
 - ・ 事前調整の段階で運行ルート・乗降場所に制限が出た

- ・ 運行ルート・乗降場所の制限があったこと、利用者のほとんどが駅とポート間の利用であったことから、AIの効果を十分に発揮できなかった
- ・ 有効なモビリティサービスが少なかった新八代駅とくまモンポート八代間のアクセス改善及び交通空白の解消に効果を示した

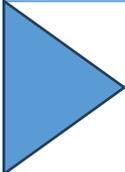


4 今後の取組予定について

実証実験で確認できた効果を高め、課題をクリアできるような取組を進めていきます

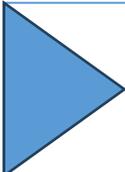
モビリティ・ハブの整備

- ▶ アプリについては、モビリティサービスの予約だけではなく、経路検索及び観光情報など様々なメニューと連携したことで、利便性の高いものになった
- ▶ 新八代駅に新たなモビリティサービスを追加することにより拠点性を高め、アプリに情報を集約することで、モビリティ・ハブとしての機能を持たせることができた。
- ▶ 各モビリティサービスの利用増加に向け、来訪者を増やす取組が必要

- 
- ・ 現状に合わせたアプリの機能改修
 - ・ 来訪者増加に向けたアウトドアツーリズムの推進

新八代駅とくまモンポート八代間の移動手段の確保

- ▶ オンデマンドバスの運行では、AIの効果を十分に発揮できなかった
- ▶ 一定程度の需要は見込めるものの、採算ベースの新規路線の導入は難しい

- 
- ・ AIオンデマンドバスではなく、既存路線の延伸による新八代駅とくまモンポート八代間の移動手段の確保

くまモンポート八代に寄港する大型クルーズ船乗船客への対応についても取組をすすめています

- ▶くまモンポート八代は、令和5年春より、本格的に大型の国際クルーズ船の寄港数が増加傾向にある
- ▶大型のクルーズ船が寄港した際には、くまモンポート八代におけるタクシー需要が急増し、八代交通圏のタクシー事業者のみでは対応が難しく、乗船客が概ね3,000人以上の場合には、1時間を超える待ち時間が発生している

令和6年9月 乗用タクシーの「営業区域外旅客運送」開始

【タクシー待ちの状況】

乗船客への対応として、ツアーバス以外の移動手段の確保についても喫緊の課題であった。



R6. 5. 20 乗船客約5,000人



R6. 6. 2 乗船客約3,300人

観光・交通に決まった正解はありませんので、様々な関係者を巻き込んで、それぞれ得意な分野で協力をしましょう

取組で得られた知見の例

- ▶ デジタル予約アプリへのアクセスが海外からの割合が多かったことから、くまモンポート八代のプロモーションは、国内旅行者だけではなくインバウンド対応が必要
- ▶ 実験開始当初には想定していなかった団体（熊本MaaS推進交通事業者連絡会、八代商工会議所、熊本県など）とも連携し、様々な視点からくまモンポート八代までの移動手段の確保について検討することができた

⇒ 知見をカタチにするのは自治体だけでは不可能なので、連携・協力し、地域の元気が生まれる取組を進めることが重要

**「観光」はその地域があってこそ、「交通」は利用する人がいてこそ
観光と交通で、元気な地域をつくっていきましょう！**

ご不明点などがありましたら お気軽にご連絡ください

八代市 地域政策課 公共交通係
Tel:0965-33-4168(直通)
Mail: yuu-nly@city.yatsushiro.lg.jp



▲大型旅客船ターミナル
くまモンポート八代



▲ユネスコ無形文化遺産登録
九州三大祭「妙見祭」



▲やっしろ全国
花火競技大会



熊本県八代地方が誇る
世界最大級の柑橘
ばん べい ゆ
晩白柚

▲世界最大の柑橘類「晩白柚」

皆さま是非、来シーズンの旅の行き先に「熊本県八代市」を追加してください！